

質問第一号

公助を求める国民の声に関する質問主意書

右の質問主意書を国会法第七十四条によって提出する。

令和八年十月二十日

奥田 ふみよ

参議院議長 関口 昌一 殿



## 公助を求める国民の声に関する質問主意書

私は、政府や行政による支援が不足している又は全くないことで苦しむ主権者から、「公助」を求める声を集め、紹介する活動を行ってきた。

主権者から寄せられた「公助」を求める声を受けて、以下質問する。主権者からの声に対して、誠実に答弁されたい。

一 政府は、独身かつ単身の世帯（配偶者との離別、死別の場合を含む。）の家計負担が他の世帯における一人当たりの家計負担と比べてどの程度重いか、その負担の度合いを調査しているか示されたい。また、当該調査に基づいて、独身かつ単身の世帯に対する負担軽減のための手当や給付金を支給する必要があると考えるが、政府の見解を示されたい。

二 日本で公務員として農業・漁業に従事する者について、その数及び農業・漁業従事者全体に占める割合を示されたい。また、全ての農業・漁業従事者に対し、公務員と同等の安定した雇用と収入・社会保障を提供すべきと考えるが、政府の見解を示されたい。

三 介護保険制度において、要介護度にかかわらず、車椅子のレンタル費用を全額公費で負担する必要がある

ると考えるが、政府の見解を示されたい。

四 うつ病患者が精神障害者保健福祉手帳を申請するには、初診から六箇月以上経過しないといけない等の要件がある。患者の貯蓄が少ない場合、うつ病を発症して収入が絶たれた状態で六箇月間生活しながら治療費を払い続けることは困難である。当該要件を撤廃し、医師の診断書があればすぐに精神障害者保健福祉手帳を申請できるような制度を改正すべきと考えるが、政府の見解を示されたい。

五 大学入学共通テスト検定料は、三教科以上受験する場合には一万八千円であり、受験生から「高すぎる」との声が上がっている。大学入学共通テスト検定料を無料にし、私立大学の受験料も公費で引き下げるべきと考えるが、政府の見解を示されたい。

右質問する。